



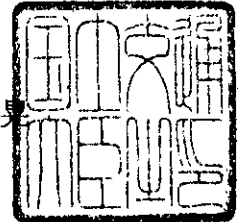
認 定 書

国住指第3652号
平成16年3月17日

吉野石膏株式会社

代表取締役社長 須藤永一郎 様

国土交通大臣 石原 伸男



下記の構造方法又は建築材料については、建築基準法第68条の26第1項（同法第88条第1項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第2条第七号及び同法施行令第107条第二号（間仕切壁（非耐力壁）：1時間）の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号

FP060NP - 0049

2. 認定をした構造方法又は建築材料の名称

片面強化せっこうボード重張／軽量鉄骨下地間仕切壁

3. 認定をした構造方法又は建築材料の内容

別添の通り

1. 構造名

片面強化せっこうボード重張／軽量鉄骨下地間仕切壁

2. 寸法

壁高及び壁幅については、構造計算等により構造安定性が確認できる大きさとする。

3. 材料構成等

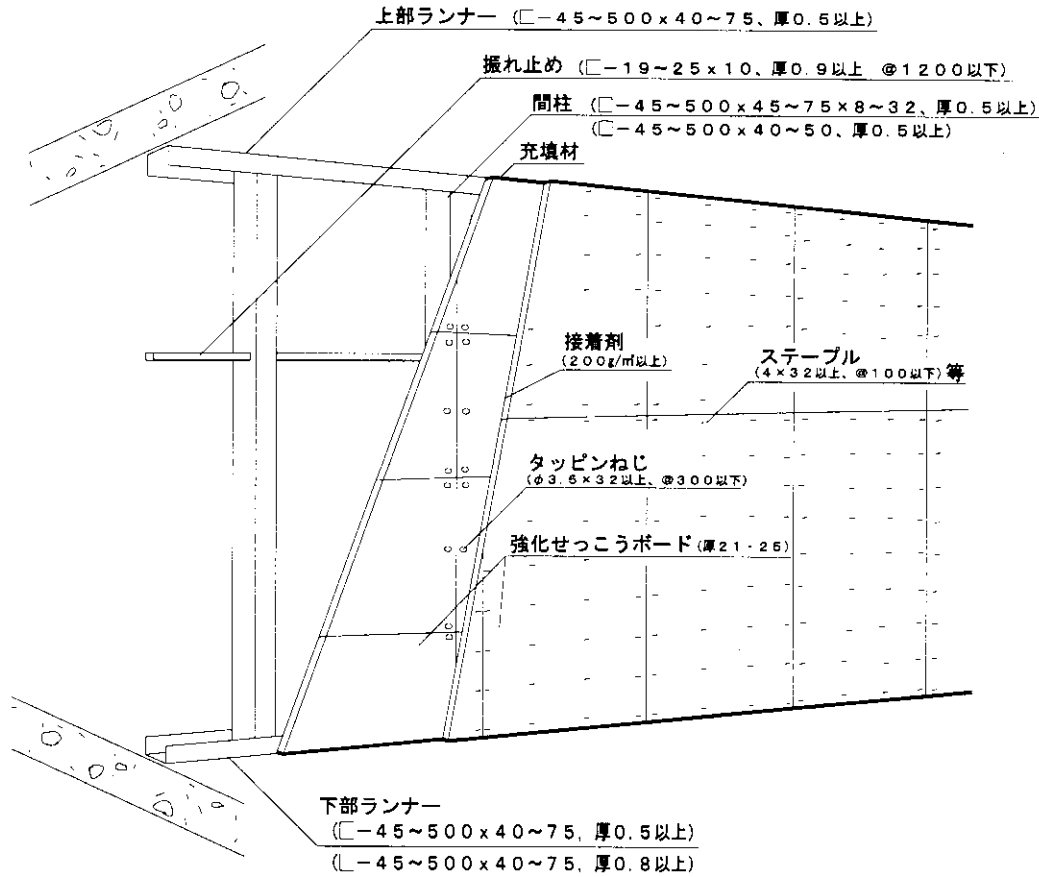
項	目	製品仕様等
被覆材	強化せっこうボード(上張り材及び下張り材)	規格：不燃材料認定番号 NM-8615、JIS A 6901 形状：平板 表面の形状：平滑 端部の形状：スクエアー、テーパ、ベベル 厚さ(mm)：21.25 ± 0.5 かさ比重：0.75 以上 大きさ(mm)：最小 606 × 1,820、最大 910 × 4,500
下地材	上部ランナー	材料名及び規格 溶融亜鉛めっき鋼板、電気亜鉛めっき鋼板(JIS G 3302、JIS G 3313)等 形状・寸法(mm) □ -45 ~ 500 × 40 ~ 75、厚さ 0.5 以上
	下部ランナー	材料名及び規格 溶融亜鉛めっき鋼板、電気亜鉛めっき鋼板(JIS G 3302、JIS G 3313)等 形状・寸法(mm) □ -45 ~ 500 × 40 ~ 75、厚さ 0.5 以上 └ -45 ~ 500 × 40 ~ 75、厚さ 0.8 以上 └形ランナーを用いる場合は、間柱(スタッド)の下部を タッピンねじで留め付ける。
	間柱(スタッド)	材料名及び規格 溶融亜鉛めっき鋼板、電気亜鉛めっき鋼板(JIS G 3302、JIS G 3313)等 形状・寸法(mm) □ -45 ~ 500 × 45 ~ 75 × 8 ~ 32、厚さ 0.5 以上 □ -45 ~ 500 × 40 ~ 50、厚さ 0.5 以上 取付け間隔(mm) 606 以下
	振れ止め	材料名及び規格 溶融亜鉛めっき鋼板、電気亜鉛めっき鋼板(JIS G 3302、JIS G 3313)等 形状・寸法(mm) □ -19 ~ 25 × 10、厚さ 0.9 以上 取付け間隔(mm) 1,200 以下(高さ方向)

項	目	製品仕様等
副構成材料	タッピンねじ、ステーブル、接着剤等	<p>下張り強化せっこうボード取付け用 タッピンねじ 寸法(mm)：φ 3.5 × 32 以上 留め付け間隔(mm)：300 以下</p> <p>上張り強化せっこうボード取付け用 ①ステーブル 寸法(mm)：幅 4 以上、長さ 32 以上 留め付け間隔(mm)：100 以下</p> <p>②接着剤 種類：せっこう系、炭酸カルシウム系 塗布量(g/m²)：200 以上</p> <p>③タッピンねじ 寸法(mm)：φ 3.5 × 52 以上 留め付け間隔(mm)：600 以下</p> <p>取付け方法 上記①と②で下張り強化せっこうボードに取付け、必要に応じて、③を併用して、間柱(スタッド)に取付ける。 間柱(スタッド)の└形下部ランナーへの取付け用 タッピンねじ 寸法(mm)：φ 4 × 13 以上</p>
	上張り材の目地処理材	<p>シーリング材 種類：ウレタン樹脂系またはシリコーン系 塗布量(g/m)：10 以上</p>
間柱(スタッド)及び被覆材の取付け方法	間柱(スタッド)	<p>間柱(スタッド)を 606 mm 以下の間隔で上部及び下部ランナーに差し込んで固定する。なお、下部ランナーに└形ランナーを用いる場合は、間柱(スタッド)の下部をφ 4 × 13 mm 以上のタッピンねじで└形ランナーに取付ける。</p>
	下張り強化せっこうボード	<p>下張り強化せっこうボードをφ 3.5 × 32 mm 以上のタッピンねじで 300 mm 以下の間隔で間柱(スタッド)に留め付ける。</p>
	上張り強化せっこうボード	<p>上張り強化せっこうボードは、接着剤(200g/m²以上)を併用して、幅 4 mm 以上、長さ 32 mm 以上のステーブルで 100 mm 以下の間隔で下張り強化せっこうボードに留め付ける。必要に応じて、φ 3.5 × 52 mm 以上のタッピンねじで 600 mm 以下の間隔で間柱(スタッド)に留め付ける。上張り強化せっこうボードの目地部は、シーリング材(10g/m 以上)にて平滑に仕上げる。</p>
壁端部(柱・はり等との取合い部)の処理		<p>下張り被覆材または上張り被覆材のどちらか一方に、あるいはこの両者に目透かしを設ける場合は、それぞれの目透かし部に次の①から③のいずれかを充填する。目透かし幅は 10 mm 以下とする。</p> <p>①シーリング材 種類 アクリル樹脂系、ウレタン樹脂系、ポリサルファイド系、シリコーン系、酢酸ビニル樹脂系 充填量(g/m) 120 以上</p> <p>②ロックウール、ロックウール保温板 密度(kg/m³) 20 以上</p> <p>③せっこう系、炭酸カルシウム系無機質充填材 充填量(g/m) 120 以上</p>

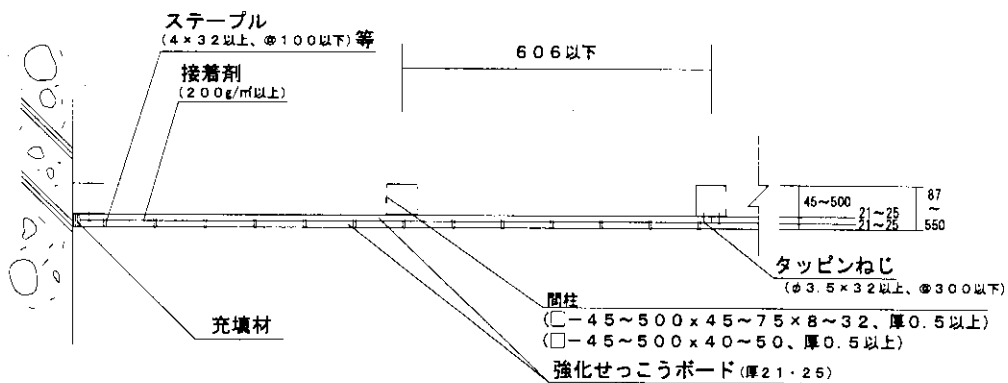
4. 構造説明図

(1) 透視図

(単位 : mm)



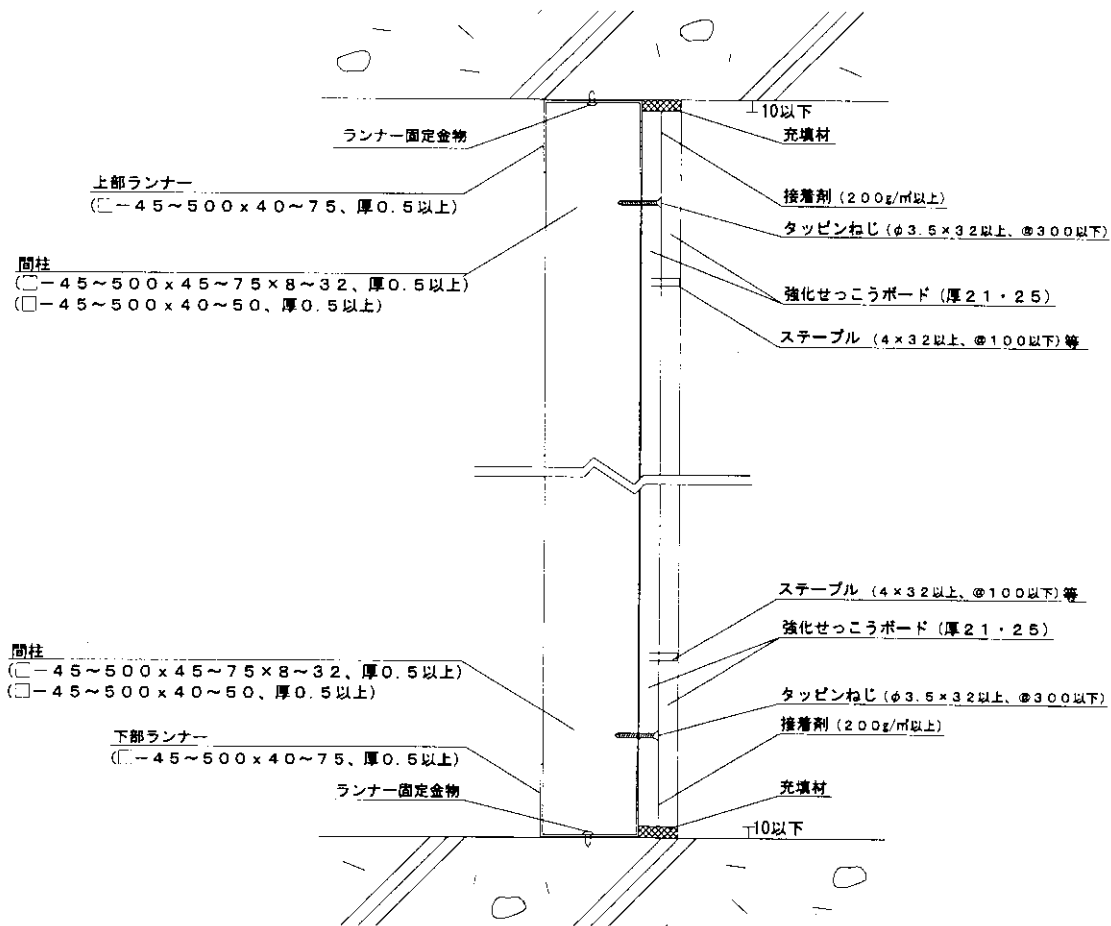
(2) 水平断面図



(3) 断面詳細図

①下部ランナーが□形の場合

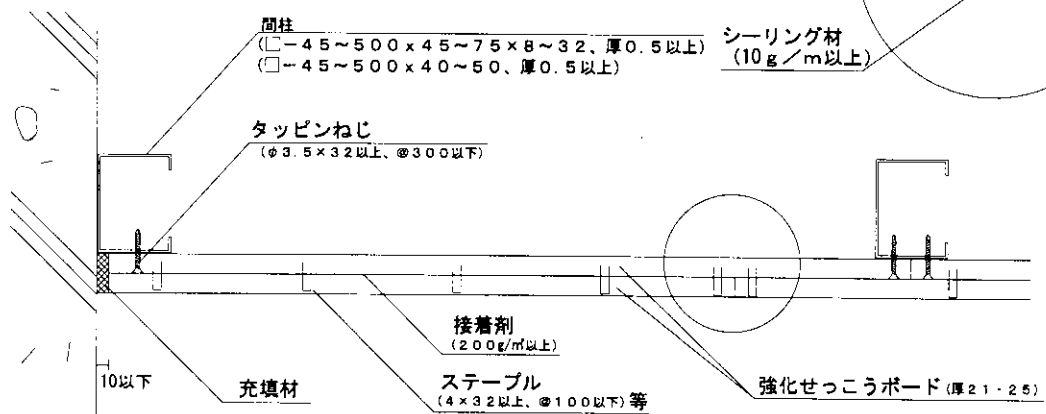
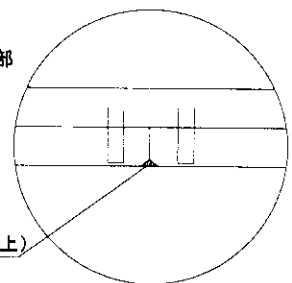
(単位：mm)



間柱
(□-45~500x45~75x8~32, 厚0.5以上)
(□-45~500x40~50, 厚0.5以上)

間柱
(□-45~500x45~75x8~32, 厚0.5以上)
(□-45~500x40~50, 厚0.5以上)

目地部詳細部



間柱
(□-45~500x45~75x8~32, 厚0.5以上)
(□-45~500x40~50, 厚0.5以上)

タッピンねじ
(φ3.5x32以上, @300以下)

シーリング材
(10g/m以上)

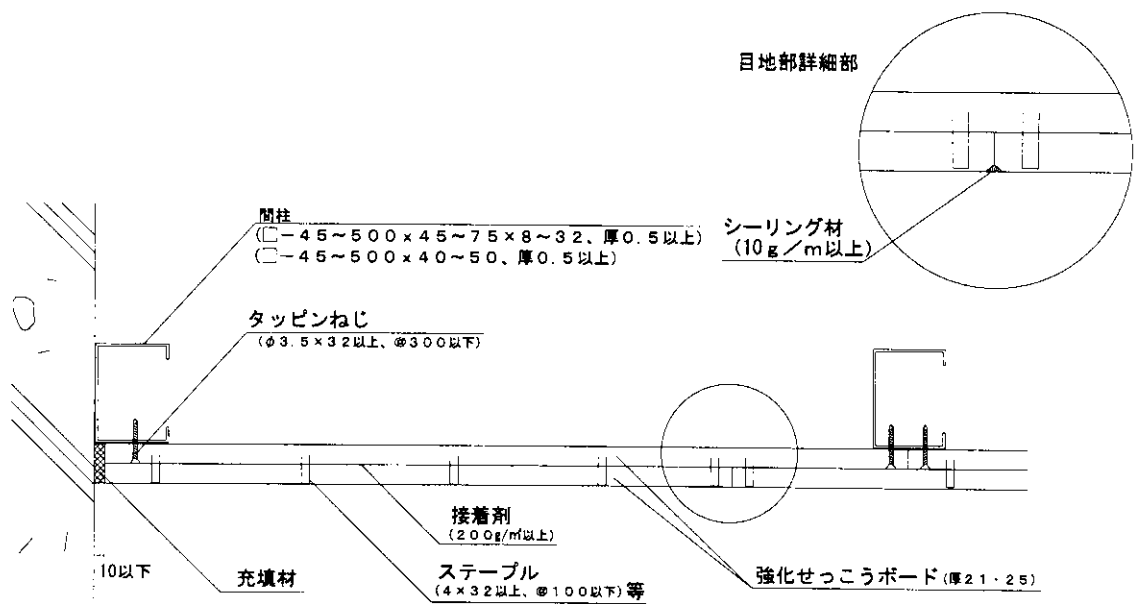
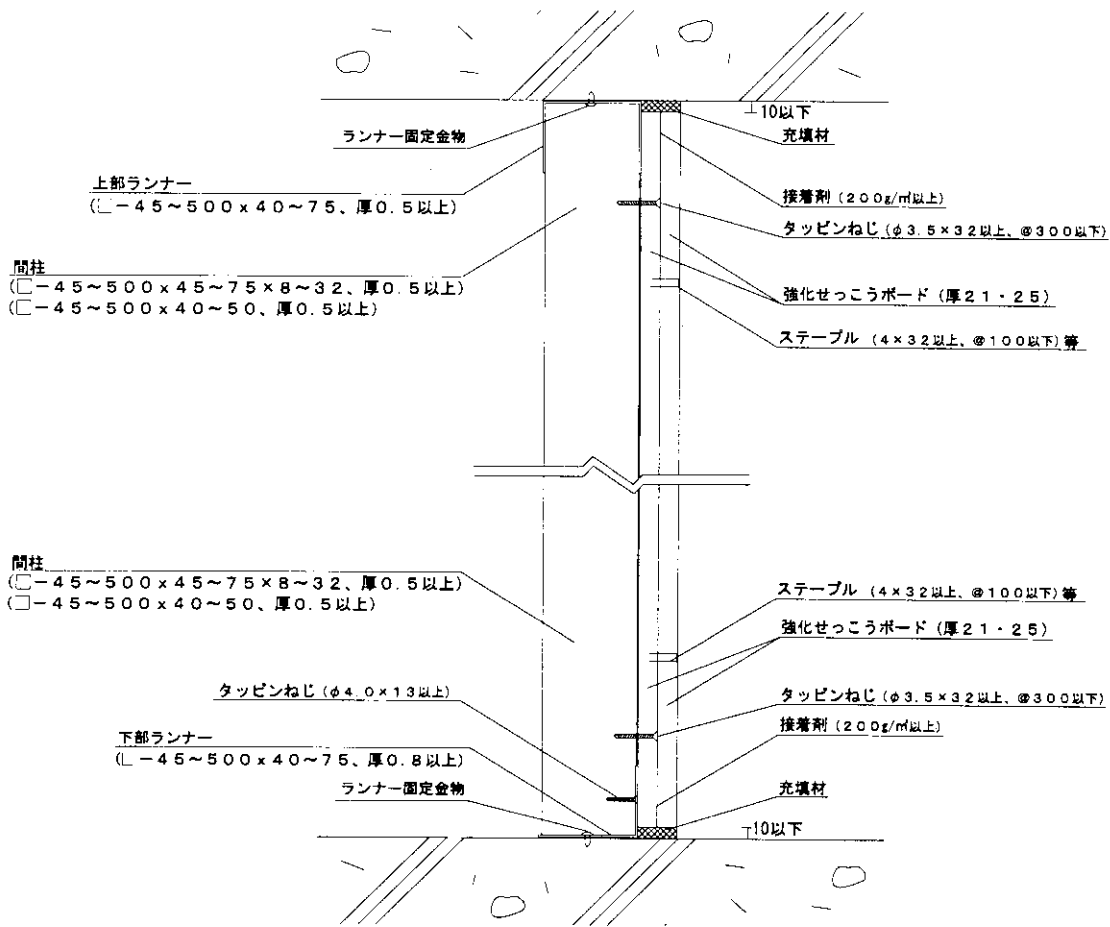
接着剤
(200g/m以上)

ステーブル
(4x32以上, @100以下)等

強化せっこうボード (厚21・25)

②下部ランナーがL形の場合

(単位 : mm)



5. 施工方法

(1) 上部及び下部ランナーの取付け

上部及び下部ランナーを取付ける位置に墨出しを行う。上部及び下部ランナーを取付ける躯体がコンクリートの場合は、ランナー固定金物等にて、鋼製の場合には、ランナー受けピース等を介してタッピンねじ、溶接等にて、それぞれ 900 mm 以下の間隔で上部及び下部ランナーを躯体に取付ける。

(2) 間柱(スタッド)の取付け

間柱(スタッド)を予め現場の寸法に合わせて切断し、606 mm 以下の間隔で上部及び下部ランナーに差し込んで固定する。なお、下部ランナーに 形ランナーを用いる場合は、間柱(スタッド)の下部を $\phi 4 \times 13$ mm 以上のタッピンねじで 形ランナーに取付ける。

(3) 振れ止めの取付け

振れ止めを予め現場の寸法に合わせて切断し、高さ 1,200 mm 以下の間隔で間柱(スタッド)の側面の切欠き部に差し込んで固定する。

(4) 下張り強化せっこうボードの取付け

下張り強化せっこうボードを予め現場の寸法に合わせて切断し、 $\phi 3.5 \times 32$ mm 以上のタッピンねじで 300 mm 以下の間隔で間柱(スタッド)に留め付ける。

(5) 上張り強化せっこうボードの取付け

上張り強化せっこうボードは、予め現場の寸法に合わせて切断し、その目地が下張り強化せっこうボードの目地と重ならないように配置し、接着剤(200g/m²以上)を併用して、幅 4 mm 以上、長さ 32 mm 以上のステーブルで 100 mm 以下の間隔で下張り強化せっこうボードに留め付ける。必要に応じて、 $\phi 3.5 \times 52$ mm 以上のタッピンねじで 600 mm 以下の間隔で間柱(スタッド)に留め付ける。

上張り強化せっこうボードの目地部は、シーリング材(10g/m以上)にて平滑に仕上げる。

(6) 壁端部の処理

下張りまたは上張り強化せっこうボードのどちらか一方に、あるいはこの両者に目透かしを設ける場合は、目透かし幅を 10 mm 以下とし、それぞれの目透かし部に充填材を隙間なく充填する。